

# ANSWERS

Q<sub>2</sub> 浜松での17年間、家康公は何をしようとしたの？

A 人生最大のプレッシャーの中を生き抜いたのです。

家康公は、幼少期に尾張と駿府で人質時代を過ごしました。岡崎城に戻り、三河を平定した後、29歳で浜松城に移ると三方ヶ原の戦いをはじめとする多くの戦いを経験。45歳までの17年間は、多くの家臣や妻と長男までもを失うという人生最大のプレッシャーの中を生き、粘り強く出世への力を養い「家康」という人間が形成された期間でした。三河から来た一介の戦国大名が領地二カ国から五カ国持ちの大名に出世し、豊臣秀吉に次いで天下のナンバー2となっていたのです。その戦いぶりや人となりで浜松の領民に受け入れられていったのではないのでしょうか。

これほどまで大事に思うてくれて、余は満足じゃ。

Q<sub>3</sub> 家康公は、どんな宝物を残してくれましたか？

A 一番は「出世の街」という都市の魅力です。

家康公は貴重な史跡や歴史、伝説を数多く残したのちろん、今川時代の「宿場町」「引馬」を初めて戦国大名の本拠地とし、家臣団の配置も含めた城下町「浜松」へと大改造しました。そして、浜松は東西の文化と人々が行き交う自由な雰囲気や育み、語り継がれていった家康公の積極果敢に挑戦する姿と相まって、先取りと創造性ある市民性「やらまいか」につながっていったのではないのでしょうか。さらに、浜松城の歴代城主の出世が続いたり、世界的な企業や著名人を輩出したりすることで出世運のある街として知られるようになりました。現在、市は家康公がもたらしてくれた浜松の魅力を「出世の街」として掲げ、国内外に広くアピールしています。

Q<sub>5</sub> でも、浜松時代の家康公のことが、知らない人の方が多い？

A 郷土が誇る歴史として市内外に伝えています。

浜松市の全小・中学校では郷土について学ぶ副読本「のびゆく浜松」の中で、家康公についての詳しい記述を設けています。また、課外授業での史跡めぐりや夏休みの自由研究などを通して、家康公を身近に感じています。市民および市外に向けての発信として、家康公にまつわる歴史や施設あるいは「出世の街」の紹介を広報誌で特集したり、発掘調査の成果をガイドブックにまとめ、販売したりしています。平成26年秋からは家康公の偉業を伝承する「出世の街浜松家康公祭り」がスタートしています。平成27年11月1日から開催される博物館特別展「徳川家康 天下取りへの道」では、浜松での家康公と公を支えた家臣団について紹介します。お見逃しなく。

(P10 イベントスケジュール参照)

Q<sub>4</sub> 宝物はいつで見るといいですか？

A 市自体が宝箱、「見える化」でさらに輝きます。

家康公にまつわる史跡や施設は市内あちこちに点在。浜松自体が宝箱です。街中には、浜松城を中心とした散策ルート「家康の散歩道」が整備されています。宝物に触れる第一歩としてお薦めです。また、これまで目に見えにくかった歴史や伝説の「見える化」にも取り組んでいます。浜松城の天守門の復元※をはじめ、実物大の「立体しかみ像」制作、「三方ヶ原の戦い」のジオラマ(情景の模型)化、若き日の徳川家康公3D肖像制作、土堀の再現など※によって、家康公の宝物はますます輝きを増していきます。

※天守門と土堀は家康公時代より後のものですが、その歴史は家康公に始まります。